

0 はじめに

前災害復興制度研究所長の室崎益輝先生は本年（2013年）3月31日をもって大学の定めにより定年退職されました。本特集は、先生が所長を務められていた5年間に、とりわけ心を砕いて取り組まれた災害復興に関わる現実の諸問題に焦点を絞って、ご講演や研究論文等でご発表になったものを集めて再編し、一つの冊子としたものです。これにより室崎先生在任中のご功績を振返るの一助となればと願っております。

先生は長い研究生活の中で早くから「災害と復興」の重要性に着目され、この分野で先見的で先導的なご業績を築いて来られました。関西学院大学でご在任中に時あたかも東日本大震災が発生しました。ひととき強い使命感と責任感、それに加えて類まれな洞察力と実践力を持っておられる先生は、時を置かず行動の人として被災地に駆けつけ、まさに未曾有の大災害が突き付けた復旧・復興に関わる地域的・社会的諸問題に真っ向から向き合い、格闘されました。本特集に集められた、「書き記された室崎先生のメッセージ」の数々には、先生の鬼気迫る格闘の跡を感じ取ることができるように思います。ご自身の深い悲しみや静かな憤りに裏打ちされた説得性のある政策論的知見と社会的革新を求めるアピールを読み取る方も少なくないはずです。そして何よりも先生を「非凡の知的格闘者」としているのは、災害で苦闘する人々の目の高さに立たれていることです。そして必要ならば厭わず、その人たちの中にじっと静かに身を置いて悲しみをご自身の中に汲み取り、命と生活の大切さを説く。それを阻む制度の壁と放置している社会（そして我々一人ひとり）の怠慢と欺瞞を冷徹に洞察し続けられる。このような先生の研究姿勢からは私たちが忘れてはいけない基本的な心がけを学ぶことができるようにも思われます。

静にして動の人、室崎益輝先生のこれまでのご功績をここでもう一度咀嚼し、噛みしめて、後に続く私たちの今後の糧にしていきたいと考えます。本特集号をお届けするこの機会に、これまで災害復興制度研究所をご支援してきていただいた皆さま方には、引き続きより一層のご協力とご鞭撻を願います。

2013年7月1日

関西学院大学災害復興制度研究所長 岡田 憲夫